

正宗騎馬像

小室達・日記から

小室達・日記から

8

わってくる。

## 落成の光と影

三小

主は友人た  
爾靈等

のを覺ゆ。謹んでしへに満

卷之三

同月同日、監督の小室正作は「台に倒れて死んでしまった」として、監督としての活動を終えた。この事件は、『黒い金』の監督としての小室の死と見なされることが多い。小室は、監督としての活動を終えた後、脚本家として『黒い金』の脚本を執筆した。この脚本は、『黒い金』の監督としての小室の死と見なされることが多い。

す。青年園芸の力を借り、  
石の方も像の方も用意済  
む。名前統べて来る。十  
時式を開始する。除幕は好都  
合にうまく行った。式場で  
はわれわれは席待たる。面  
白くなかった。

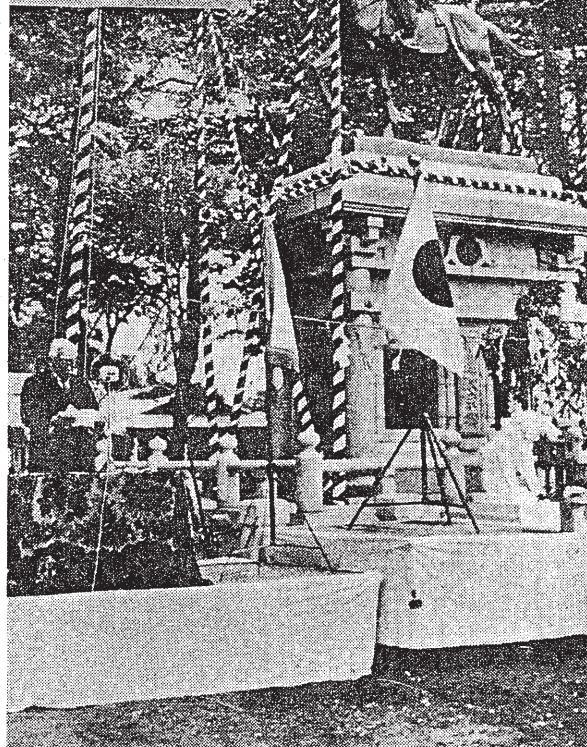
たたしも扇の匂丘の  
一県連合青年団顧問に  
かれたる伊達登美子(べのまこ)  
は眞白き石段に一足、二足  
歩を進めて新緑に映える  
白の幕を引けば、二条のひ  
もはサツと下りて、参列す  
一同思わずハツとする

朗読、愛さざ満らひ、氣氛を上へた。  
「日本除幕式の式典に別  
するの光榮得たるは余の尊  
も欣幸とするところにして  
感慨無量なるものあり」で  
始まるあいさう文は、政黨  
の遺徳をしのび、仙台藩と

さつ

ははたたかの者より讀み雜志

この年の大みそか、小室の父は、お正月の賀電でお詫びされるのがなかつた。幻のあいづ文である。仲間を前に複数の喜びは、み上げる小室の心中は複数にわたるに違ひない。制作としての喜びは、除幕式であつた日から隠りを帶びるものになつていく。



小室のスクランブル帽に残されていた。大日本連合青年団が発行の機関誌『青年』から、カラーラのセリフ抜きが同僚たちから除かれ式の模様がかぎりとていい。

間の關係者各位の迷惑取扱いの奮闘努力實に感謝しまして、其の原型ならぬ爲めに銅鑄、白石の工模に際し、各方面の激励、声援を賜り、指導の力また偉大なるものあり。あるいは有益なる参考資料を提供して研究の便を与えられ、あるは眞心をこめて神仏にその成功を

小室は不遇の晩年を予期していいたのだろう。騎馬像の完成と待望の長男が生まれた昭和十年を境に、時代は芸術家がより住みにくくなる方向へと進んでいくた。

# 幻のあいさつ文

一癡翁公大銅像も予定の  
完成後、予期以上に好評  
銷路せんせい。予期以上に好評  
評を博した。こうして鶴  
遊、「空腹」及び通送に  
一大センセーションを巻き起  
した実績的揚げのうちに  
多くなった。鶴仙の仙台市  
始めて出来人の出、三百石  
年前のままの人々の歓  
迎、堀木町民、栗柴田町の  
祝賀、（ひととして）済まない  
の祝賀、（ひととして）済まない  
に参集したうらう。余が一  
生を通じてかくも尊々し